

令和7年度第3回岩手県企業局経営評価委員会 議事録

令和8年2月9日(月) 14時30分 から 15時30分 まで
 エスポワールいわて 3階 特別ホール

次 第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 議 事
 - (1) 令和7年度の経営評価(実績見込)について
 - (2) 令和8年度経営評価委員会の議事について
 - (3) その他
- 4 閉 会

所 属		氏 名
委員長	一関工業高等専門学校	あかし 尚之 明石 尚之
委 員	いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社	あべ 瑛子 阿部 瑛子
〃	早稲田大学水循環システム研究所 株式会社群馬東部水道サービス	なみかわ すすむ 濤川 進
〃	国立大学法人岩手大学	わたなべ あさみ 渡部 あさみ
〃	盛岡ガス株式会社	わたなべ のりお 渡邊 憲郎
企業局	局長	おじま じゅん 小島 純
〃	技師長	たかはし ひろし 高橋 浩
〃 (経営総務室)	管理課長	こん あきこ 金 亜希子
〃	主幹兼予算経理担当課長	ささき のぞみ 佐々木 のぞみ
〃 (業務課)	総括課長	しらい たかあき 白井 孝明
〃	事業担当課長	すずき おさむ 鈴木 修
〃	電気課長	えんどう しるゆき 遠藤 城幸
〃	技術主幹兼土木・施設担当課長	こにし たつや 小西 達哉
〃 (施設総合管理所)	施設総合管理所長	むろつき あつし 室月 敦
〃 (県南施設管理所)	県南施設管理所長	いとう くにひこ 伊藤 邦彦
事務局	経営総務室 経営企画課長	せんとく だいすけ 千徳 大輔
〃	経営総務室 経営企画担当 主任主査	きくち ともや 菊池 智也
〃	経営総務室 経営企画担当 主査	かわぐち たくみ 川口 拓実
〃	経営総務室 経営企画担当 主任	たかむら たくみ 高村 匠
〃	経営総務室 経営企画担当 主事	さとう ゆうすけ 佐藤 勇介

(委員 50 音順 敬称略)

(発言者)

(発言内容)

【 1 開 会 】

千徳
経営企画課長

定刻となりましたので、ただいまから、令和7年度第3回岩手県企業局経営評価委員会を開催いたします。本日、進行役を務めさせていただきます経営企画課長の千徳でございます。どうぞよろしくお願いたします。

この「岩手県企業局経営評価委員会」は、基本的に公開として開催することとしており、ホームページ等でも掲載しているところです。それでは、お手元の次第により、進行して参ります。開会に当たりまして、企業局長の小島よりごあいさつ申し上げます。

【 2 挨拶 】

小島局長

皆様、大変お忙しい中、また今日は特に冷え込んだ日でもありましたけれども、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

前回は11月でございましたけれども、上半期の経営評価についてご意見等をいただいたところでございます。本日は令和7年度、最後の経営評価委員会ということで、実績見込みについてご意見をいただきたいと考えております。

今年度を振り返りますと、電気事業では、令和2年度から再開発事業に着手していた入畑発電所が本年の1月1日に営業運転を開始いたしました。高効率水車の導入により、年間発電電力量は再開発前と比べて約1.3%ではございますけれども増加する見込みとなっておりますので、微力ながら本県の再生可能エネルギー自給率向上に貢献できたのではないかと考えております。同じく再開発中の胆沢第二発電所につきましても、早期の運転開始を目指して、鋭意、工事の進捗管理に努めているところでございます。

工業用水道事業につきましては、計画的な点検及び作業を実施し、供給停止を発生することなく安定供給を継続しております。喫緊の課題である事業の収支改善についてですが、営業費用の削減を含め、様々な改善策を内部で検討しておりますので、検討した策を実行に移し、安定的な事業運営が出来るように取り組んで参ります。

まだ年度の取組が終わっていない途中の段階ではございますが、今年度の取組を一旦ご評価いただき、いただいたご意見を踏まえながら、来年度の取組に繋げて参りたいと思っております。いつもながらですが、みなさまの忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願いたします。

簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

千徳
経営企画課長

それでは議事に入りたいと存じます。

以降の議事進行は、明石委員長にお願いたします。

【 3 議 事 】

(1) 令和7年度の経営評価(実績見込)について

明石委員長 委員長の明石です。よろしくお願ひいたします。それでは、事務局から配布されているタイムスケジュールに沿って進めてまいりますので進行にご協力をお願いします。それでは、「令和7年度の経営評価(実績見込)」について、事務局から説明をお願いします。

事務局が下記資料に基づき説明を行った。

資料1 令和7年度経営評価の総括(実績見込)

資料2 令和7年度経営評価総括表(実績見込)

参考資料1 令和7年度取組内容一覧表(実績見込)

明石委員長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等はございませんか。

濤川委員 資料2の10ページ、工業用水道事業の経常収支比率ですが、確か令和5年度以降の目標値は100%を切っているということで、目標をどのように組むかというのは非常に難しいことと思います。そのような中、特記事項に『中長期的な収支見通しを考慮しつつ経費の標準化を図るために、年度別事業実施計画を策定しました』と書いてありますが、この計画の中身をご説明いただきたいと思います。

鈴木
事業担当課長 年度別事業実施計画ですが、毎年度策定しているものでして、令和7年度に策定した実施計画ですけれども、今後10年間、令和17年度までの浄水場の委託費、修繕費、建設改良費等の見込みを試算し、支出の状況がどうなるのかを把握するために作っております。経費の平準化を図るためということで、各年度、必要な修繕を行います。実施年度をずらすことが可能な修繕はずらすなどして、特定の年度に事業費が膨らまないように作っております。これを見ながら、長期的な収支をどうするか検討するための材料の一つとしてしています。

阿部委員 資料2の13ページですが、特記事項のところに植樹活動支援の活用希望が当初見込みを下回ったということで、同じページの下の方に15件の植樹に苗木等の支援をしましたとありますが、件数や植樹の苗木の本数など、当初の見込みはどうだったのかを教えてください。また、市町村への支援ということで、市町村に対してどのようなPRをしているのか教えてください。

千徳
経営企画課長 事業規模ですが、当初予算で想定していたのは360万円程度でしたが、実績見込みとしましては290万円弱の活用状況となっております。我々は、苗木の現物を支給しておりますが、苗木の値段が上がっているというものもあると思いますし、本数が減ったということで、CO₂の削減効果が

下がっている状況もあると思います。

市町村へのPRについてですが、毎年度、今の時期に準備をしまして、各市町村や団体等に植樹活動支援事業の照会をし、活用希望の調査を行っております。そういった中で、我々の支援方法に改善の余地があるかというのはアンケートを取りながら、今後も進めていきたいと考えております。

渡部委員

資料2の11ページのところですが、組織力向上というところに関して、専門研修の受講者数は達成度がBとなっております。受講率をあげることも目的の一つだと思いますが、オンラインシステムや録画視聴を活用するとありますが、これは就業時間内に行っているのか、それとも就業後に行っているのか実態について教えていただきたいです。また、受講者の負担という観点から、受講場所やパソコンの準備はどうなっているのかについてもお聞きしたいです。

金管理課長

オンラインシステムや録画視聴ですが、業務時間内を想定しております。一人一台端末や、事業所にある会議システム等を使いますので、個人の負担は無いものと考えております。

渡部委員

実は本日の午前中に花巻にあるポリテクセンターの協議会の事前レクを受けておまして、その時に、オンデマンドというのは普及しやすい、受講しやすい一方、時間や中身を吸収することの難しさを感じていましたのでそういった趣旨の質問をさせていただきました。

次に、12ページについてですが、職員の働きやすさ向上を図るための取組ということで工事のことが記載してありますが、根本的な問題として、人的資源管理論の考え方で議論の柱となるのが、働く場所と時間の柔軟性をいかに担保するのかということです。企業局においては、働く場所や、時間の柔軟化について、例えばフレックスタイムとテレワークについて、現在どの程度導入されていて、今後の導入の余地はどうかについて教えてください。

金管理課長

制度としてフレックスタイムや在宅勤務を導入しておりますが、現場を抱えている職員もおりますので、全ての職員が活用できるかは難しいかと考えております。

渡部委員

現在、大規模グループ会社における働き方改革の展開を地方の視点を交えながら分析することをやっております、本社においては柔軟な働き方が実現しやすい一方で、地方においては現場に出なければ仕事が回らないという現状があり、こういった制度の導入が難しいと。それが不満につながっているということで、こういった観点から働きやすさを探っていけばいいのかという議論が展開されているという話を聞きました。ぜひ、働きやすさに向けて、今後も検討重ねていくというお話を聞けたら嬉しいで

す。

つづいての質問ですが、13 ページに植樹活動の地域貢献の話があります。私が岩洞第一発電所に見学に行った際に、道の両端にお花がきれいに植えられていましたが、こういった植樹活動というのは地域社会を交えた取組になっているのか、それとも企業局が独自におこなっているものなのでしょうか。なぜかと言いますと、私は企業局の持つ施設の可能性を大きく感じておりました、前回の委員会でもお話しさせていただきましたが、政策企画課の幸福感に関する分析部会で、色々なところに企業局の施設がございすけども、そういった施設の歴史であったりとか、産業や社会貢献にどのように関わっているのか、危機管理の問題であったりとか、最新技術がどういうふうにかかされているのか、クリーンエネルギーについても学ぶ機会になるのではないかとというようなことを発言させていただきました。そういった可能性を有している施設なので、地域社会とコミュニケーションを取る機会をぜひ作っていただきたいなと思っておりました、今日いただきましたこのカード(※企業局創立 70 周年記念カード)も本当に素晴らしいなと思いますし、LINE スタンプもありますし、シールとかあると多分流行ると思います。ボンボンドロップシールじゃなくてもいいと思うんですけども。そういった子供や大人向けの、ある種の地域貢献のサービスの財みたいなものがあるかと思いますので、積極的に展開していただきたいなというふう感じておりました。そういったことが、おそらく働く側にとっては負担に感じることも実際にはあると思うんですけども、それが負担にならない範囲で、そしてその日々の自身の業務が周りから見てどうなのか、客観的に振り返る機会が働く側にとっても責任感や意欲向上にもつながるのではないかと感じております。企業への聞き取り調査等を通じて、そんなことが指摘されておりましたので発言をいたしました。

次に、4 つ目ですが、先ほどの 3 つ目の話と重なりまして、企業局が持っている施設というものを、今後、もう少しその専門性を持ちながら、社会に公開していったりとか、小学生のみならず、大学生であったりとか、高専の学生であったりとか、今後働く人を受け入れるような位置づけで公開をしていくことも、今後の人材確保において重要なのかなと感じておりました。というのも、県内企業において、地域貢献を通じながら人材確保に取り組んでいる企業もありまして、そういった社会貢献というのが人材確保にもつながる、そして長期的なもので、子供を相手にしても、関心を持ち続けてもらうことにつながっていくのかなと感じております。そして、本学で行っているリカレント教育におきましても、ぜひ企業局の施設を公開していただければと感じておりました、いわて高等教育地域連携プラットフォームという、一関高専も入っていると思いますが、ふるさと振興部の学術担当の方と本学と一緒にやっております、そこで越境学習をする際に、地域の産業構造であったり、有している技術であったり、施設、例えばダムだけにするのか、それともこの間拝見したようにカヌー競技場として提供したりしながら、役割を模索するようなやり方についてお話しした

だくことというのが、企業局の施設に対する愛着を持ったり、歴史を学ぶことにつながったり、産業構造であったり、公企業が果たす役割に触れることで、地域産業を見る視点も少し深まるような、そんな機会になるように感じております。組織内外、県庁の組織でもいろいろな連携もあるかと思えますし、施設の魅力というものを組織を超えて、ぜひ発信していただければというふうに感じております。

千徳
経営企画課長

植樹に関する質問に回答させていただきますと、企業局の植樹活動は平成 16 年度から始まっておりまして、地域貢献ってというのが大元なんですけれど、発電や工業用水で水に関わる仕事をしておりますので、水源涵養のために森の整備をしようということで環境保全のために行っています。そのほか、職員の意識啓発として、これだけ地域に貢献しているんだというのを実際に植樹に参加して体験してもらっています。その他に、先ほどおっしゃったように、植樹活動の支援の中で企業局の P R も併せて行なっております。先ほど別の質問で回答しましたが、現金を支給するのではなくて、必要な苗木を我々が購入して、自治体や N P O、ライオンズクラブなどの自治会等の求めに応じて、現物を支給してで、一部のその植樹活動については職員も赴いて、地域のために共に汗を流して作業しております。令和 6 年度までに、延べ 280 地区に対して 10 万本以上の苗木をこれまで支給しております。

そのほか、地域貢献についての発信という話もありましたけども、企業局がやっている地域貢献についてのリーフレットを現在作成しておりまして、大人向けと子供向けの二通りを作って、見学会やイベントなどで配布し、企業局がどういうことをやっているのかを広く県民の皆様にご存知と進めております。

渡邊委員

資料 2 6 ページ目の(2) 特記事項 ② 2)に経費の平準化に向けて、令和 8 年度版の 10 か年計画の策定に着手したとありますが、10 年間の経費を平準化しようとする、大きな課題や方向性がないとなかなか難しいと思いますけど、今後評価するうえで、どういったところに向けて経費の標準化を検討しているか差し支えなければ教えていただきたいと思えます。

遠藤電気課長

10 か年計画というのは毎年作成しておりまして、収入と費用のバランスをとって、年度ごとに工事を少しずつしたり、それから後回しにしたりといったことをやっております。その時のポイントを申しますと、実際に収益を上げるということで、内部留保資金であるとか、利益がどのくらい出るかといったところを重点的に押さえて、費用の平準化を図っているのが主なところでございます

渡邊委員

2 点目ですが、資料 2 の 11 ページ、有資格者数の経営目標ですが、電気の方が 5 名、ダム水路が 6 名ということで、これは企業局全体で持っている人の目標ということですが、電気主任技術者の実績はもう 12 名の方

がいらっしゃるということで、新規については読み解けないと考えてよろしいのでしょうか。

金管理課長 企業局全体で5名の目標に対して、第1種、第2種あわせて12名となっているところです。

渡邊委員 資格を取得させるための必要な支援というか施策と言いますか、手当や勉強会など、そういった支援が何かございましたら教えていただければと思います。

金管理課長 手当に関係した話ですけども、資格を取得した方に対しては年1回の昇給において評価することとしております。

濤川委員 資料2 1 ページ目の保守データ収集システムですが、そもそも保守データというのはPDCAを回して必要なところを改修したり修繕するのが当たり前ののですが、あえて導入累計数をとっているということは、何かこれが特徴的なものなのかと思うんですけど、その辺のところをご説明いただければということが一つ。

それから、資料1の方で、保守に関連して異常兆候監視サービスを試験的に導入しており、これが電力と工業用水両方に出てきています。こちらは今、電気機器の振動とか電力電圧を取ってそれをAIで分析するようなシステムが流行っているんですけど、そのことをおっしゃっているのか、以上、2点についてお答えいただきたいと思います。

遠藤電気課長 保守データ収集システムですが、発電所にはいろいろなデータがあり、そのデータをこれまでは目で読み取ってデータを紙に書いてといったことが主だったんですけども、そのデータをデジタルのまま取り込み、巡回点検を簡素化するところを目標としています。このような保守データ収集システムを色々な発電所に投入していこうと考えております。それから、異常兆候監視サービスですけども、こちらは東北電力で提供しているサービスですが、導入することで故障の発生をより早く検知でき、そこから予防保全的に補修工事をいつやればいいのかといったところを将来は目指したいと思っています。しかし、そこまで精度や検知できる能力がまだ備わっていないところもありますので、試験的にサービスを導入して検証しています。

濤川委員 1つ目の質問についてですが、データを取ることに優位性のあるシステムという理解でよろしいのでしょうか。分析よりもデータを取ることに注力したシステムなのでしょうか。

遠藤電気課長 今のところは、分析といっても故障を発見するようなデータがまだ取れない状況ですので、まずはデータをすぐに取り、巡視を素早く楽にする

ことを考えています。

濤川委員 2つ目の質問についてですが、今は振動、音、熱とかいろいろ取ってAIで分析しているシステムがいろんなところから出ていますので、ご検討いただけたら面白いかなと思います。

明石委員長 そのほかはございませんか。それでは、委員の皆様から出されたご意見を参考に、今後の取組を進めていただきたいと思います。

【 3 議 事 】

(2) 令和8年度経営評価委員会の議事について

明石委員長 続きまして、「令和8年度経営評価委員会の議事について」、事務局から説明をお願いします。

事務局が下記資料に基づき説明を行った。

資料3 令和8年度経営評価委員会の議事について

明石委員長 ただ今の説明について、ご質問、ご意見等はございませんか。無いようでしたら、次に移ります。

【 3 議 事 】

(3) その他

明石委員長 続きまして「その他」ですが、事務局から何かありますか。

事務局が下記資料に基づき報告を行った。

参考資料2 新エネルギー大賞の受賞について

明石委員長 質問等ございますか。無いようでしたら、委員の皆様から何かございますか。(各委員からなし)

それでは、本日本日予定していた議事はすべて終了となります。スムーズな議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。それでは残りの進行は事務局にお返しいたします。

【 4 閉 会 】

千徳 経営企画課長 明石委員長ありがとうございました。みなさま、本日は貴重なご意見、ご助言を賜り誠にありがとうございました。いただいたご意見等を参考にさせていただき、業務や課題に取り組み、中期経営計画を推進していきたいと思っております。閉会に当たりまして、局長から一言御礼を申し上げます。

小島局長

いつも皆様の専門の分野の観点から、ソフト、ハードを含めた、あるいは、私どもの地域貢献の取組についてまで様々なご意見を頂戴したところでございます。本当にありがとうございます。毎回ですけれども、貴重なご意見、あるいは私どもの背中を後押ししていただくようなご意見を頂戴し、本当に嬉しくありがたく思っております。まだ年度が終わっていませんけれども、しっかりと今年度の取組を完結させますとともに、令和8年度の取組についてこれからブラッシュアップして検討してまいりたいと思いますので、皆様方には引き続き様々なご意見を賜りますようお願いいたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日誠にありがとうございました。

千徳
経営企画課長

それでは、これを持ちまして令和7年度第3回岩手県企業局経営評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。